

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------|------------|--|
| 事業所番号 | 1290700069 | | |
| 法人名 | 医療法人社団 聡誠会 | | |
| 事業所名 | グループホームふくろう | | |
| 所在地 | 千葉県銚子市春日町1169 | | |
| 自己評価作成日 | 平成28年3月10日 | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-----------------|--|--|
| 評価機関名 | 株式会社 日本ビジネスシステム | | |
| 所在地 | 千葉県市川市富浜3-8-8 | | |
| 訪問調査日 | 平成28年3月20日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所を医療法人が経営している事で、医療との連携が迅速に図れ、常時医療関係者と連絡を取る事ができます。入居前の主治医との繋がりも尊重し、入居後の医療に不安を抱くような心配はありません。また、医療関係者との連絡が迅速に取れることから、将来的に看取り介護を希望された場合、心配なく今まで過ごした馴染みのあるホーム、ご自分のお部屋で最期の時まで過ごすことができます。職員一人ひとりが入居者様の気持ちに寄り添い、いっさい拘束のない安心して過ごせる居場所作りを大切にしています。月々の行事担当者がマンネリ化しがちな日々の生活に入居者様みな様で楽しめる行事を盛り込むなど、娯楽面の支援にも努めています。また、ホームでのみな様の様子をご家族にできるだけお伝えできるような広報誌を発行するなど、ご家族との繋がりも大切に考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体が医療法人である、「グループホームふくろう」は緊急時・急変時における医療支援体制が充実している施設である。加えて看護資格を有する職員がおり、入居者の日々の健康管理や状態の変化に応じた支援が行われており、家族の安心に繋がっている。定期的に施設広報誌「ふくろう通信」と入居者一人ひとりの毎日の生活模様を綴った「一日日記」を送付しており、施設の理解促進に取り組むと共に、家族との信頼関係構築に努めており、家族からも好評を得ている。その他にも、音楽療法を取り入れており、入居者の生活活性化や残存機能維持に一役買っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|--|---|----|---|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 会議や申し送り等で理念を振り返る場を設けたり掲示し、周知徹底を図っている。職員は利用者のその人らしさを大切に、穏やかに過ごせるように努力している。 | 「その人らしい穏やかな生活」と言う施設理念を掲げており、事業所内に掲示している。会議にて理念の再確認・再検討を行った結果、現理念を引き続き採用し、理念に基づいた支援の実践に向け取り組んでいる。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 町内の敬老会や、近隣の施設の夏祭りに参加させていただいたり、ボランティアの和太鼓実演の際は近隣施設に声をかけ参加していただいている。また散歩時には行き核近隣の方々との挨拶や会話を通じて馴染みの関係続くを心掛けている。 | 地域住民や登下校中の児童とは、気軽に声掛け・挨拶を交わす関係を築いていると共に、地域行事への参加等で交流を図っている。また、地域の中学生による職場体験の受け入れも行っており、世代間交流の機会を設けている。その他にも地域の他施設との交流行事も行われており、入居者の生活の活性化に繋がっている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | ボランティアや見学者は積極的に受け入れている。認知症ケアに関する相談にも対応している。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 評価結果の報告、現状報告や意見交換、質疑応答などを行い、今後のサービスに反映できるようにしている。他の施設や地域の情報等も得て、実際の取り組みに活かしている。 | 運営推進会議は年2回開催しており、地域包括支援センター職員・民生委員・町会長・地域保健推進委員・入居者・家族・施設関係者等が出席している。会議では、活動報告や意見情報交換等を行い、施設の理解促進及びサービスの質の向上に取り組んでいる。 | 地域密着型サービス施設の役割や求められる支援の在り方について再確認して頂き、運営推進会議の開催回数を増やし、入居者・家族・地域との情報交換・交流促進の機会を確保する事により関係を強化していただく事を期待します。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 地域包括支援センター等による地域実務者会議や認知症ケア検討会、ケアマネの勉強会などを通じて情報交換をし連携を図っている。運営に関することも報告、相談を行い協力体制を築いている。 | 日頃から市に対して、業務における相談や報告を随時行っており、連携を図っている。定期的に地域実務者会議・認知症ケア検討会・ケアマネジャー会議等に参加しており、会議や行事を通じて、市や同業者との意見・情報交換を行う機会を設けている。 | |

【千葉県】グループホームふくろう

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束廃止研修に参加し、職員全体で勉強会を開き理解を深め、身体拘束排除のための実践的取り組みを行っている。玄関は夜間以外施錠することはなく、ベッド柵も布団ずれ落ち防止以外使用していない。 | 全職員が身体拘束排除研修の参加経験があり、適切な知識の習得に努めている。施設内では、困難事例検討を頻繁に行っており、入居者の安全確保及び身体拘束排除に向けた適切な支援に取り組んでいる。日中は玄関の施錠は行わず、声掛け・見守りにて安全で、その人らしい自由な生活を支援している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 職員は高齢者権利擁護の研修に参加し、高齢者虐待法を意識し理解を図っている。高齢者虐待防止法を提示し周知徹底するなど虐待が行われない雰囲気作りに努めている。また虐待が合った場合も早期発見を心掛けている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 職員は「権利擁護事業」「成年後見人制度」の研修及び認知症介護実践者研修で、日常生活自立支援事業や成年後見人制度を学び理解している。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約・解約をする際は十分な説明を行い、ご家族の疑問や不安が解消されるよう、丁寧な説明を心掛けている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ご家族の来訪時に意見や要望を聞き、出された意見は職員で話し合い、サービスに反映させている。また「ふくろう通信」や「一行日誌」を毎月発行し、その中で報告や日々のホーム内の様子を知らせている。 | 家族の訪問時・電話連絡時等を活用して、家族の意見・要望を確認している。挙がった意見・要望は連絡ノート・申し送り・会議等を活用して、職員間で周知・検討の上、適切な改善に努めている。また、定期的に「ふくろう通信」「一行日記」等の手紙を家族に送付し、施設理解の促進及び信頼関係の構築に努めている。 | |

【千葉県】グループホームふくろう

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 代表者・管理者は職員が気軽に意見や要望を言える雰囲気を作り、聞くように心がけている。申し送りやカンファレンスで意見交換した内容を代表者と共に協議し、活かせるように取り組んでいる。 | 定期的に会議を開催しており、職員の意見・提案を確認すると共に、連絡ノートや申し送りを活用して情報の共有化を図っている。また、他の施設との交流会・親睦会等も行われており、職員の意欲向上が図れるよう配慮している。他に、疲労・ストレス等に配慮し、職員専用ルームが確保されており、働きやすい職場環境も整備されている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 福利厚生活動を積極的に行い、働きやすい職場環境の整備に努めている。介護職員処遇改善交付金を申請、介護職員の収入増を図っている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 活力ある施設を維持するため、全職員を対象に認知症介護実践者研修及びリーダー研修、その他外部研修に参加できる体制を取っている。カンファレンスで研修報告を行い、情報の共有に努めている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 千葉県地域密着小規模ケア推進協議会に加入、勉強会に参加し、困難事例の問題等を共有し、アドバイスを受けたり、サービスの質の向上に取り組んでいる。 | | |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 今までと違った環境の下、緊張と不安を取り除くべく信頼関係を築くために、職員は笑顔で言葉がけはゆったりと優しい雰囲気ですべて接している。生活歴や経験等を知り、その人らしい暮らしを支えるためにそれらを活かしている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居前にご家族からできる限り多くの生活歴などの情報を頂き、ご家族の要望、不安等を理解し受け止める事で、ご家族の心の不安を軽減できるように努めている。 | | |

【千葉県】グループホームふくろう

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人・ご家族との話し合いにより生活歴、ライフスタイルを知り、入居者やご家族の求めている事を把握した上で課題を明らかにし、わかりやすく説明、理解してもらっている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 本人が自分で決めたり希望を表現する事を大切にしている。配膳の手伝いや盛り付け、掃除の手伝いなどを通し、昔ながらの知恵を教えてもらったり、手助けしてもらいありがたいという職員の感謝の気持ちを伝えるようにしている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 本人の思いをご家族・職員が聴き、あるいは心情を察し、ご家族と職員の間でその情報を共有し、本人の思いが実現できるよう、必要であればご家族に協力をしていただいている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 面会時間や外出時間に柔軟性を持って対応し、ご家族をはじめ親戚・ご友人が気軽に訪問でき、訪問時は居心地よく過ごせるような雰囲気を作っている。外出・外泊はご家族に相談し、本人の希望が叶う方向で機会を作っていただくよう努めている。 | 家族・親戚・友人の訪問・電話連絡・外出・外泊等は自由となっている。また、少人数・個別での外出を実施しており、馴染みの場所での楽しみも支援している。地域の他施設との交流行事等にも参加しており、同世代との馴染み関係の継続及び新たな馴染み関係の構築にも配慮している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者同士の関係を全職員で把握している。その上で職員が仲を取り持ち、利用者同士の関係が円滑に、上手くいくように努めている。利用者個々の性格を把握し、利用者間で助け合いながら過ごせるような係わりを心掛けている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 入院された方にはできるだけ多くお見舞いに行けるように心掛けている。契約終了後に本人・ご家族にとって知りたい情報があるときは、情報の提供をし、必要な時にはいつでも相談にのれるよう努めている。 | | |

【千葉県】グループホームふくろう

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 本人と接する中で思いを把握し、ご家族や職員からの情報を収集し、本人の希望や意向に添えるよう努めている。困難な場合は本人の言葉や表情、しぐさなどから多角的に読み取り、職員で意見を出し合い、ご家族からも意見を聞き検討している。 | 契約時に本人・家族から身体状況・生活歴・意向等を確認していると共に、他事業所や医療機関から情報提供を受けており、より詳細な情報の把握に努めている。また、会議・連絡ノート・申し送り等を活用し、情報の共有及び本人本位の支援を検討している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ご家族から生活歴や生活習慣、生活環境、趣味、これまでのサービス利用の経過などを聞き、本人からも日常の会話の中でそれらを聞き取れるように努め、把握できるように努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 職員が一人ひとりと係わる中で日常状態を把握し、変化があるときには申し送り時やカンファレンスで情報伝達を確実にし、情報を共有している。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ご家族からの情報収集と意見、また職員が日々係わりを持つ中で気付いた本人の希望する生活や課題をカンファレンス等で話し合いアセスメントし、介護計画を作成している。その後ご家族に提示し意見をもらい、経過をモニタリングしている。 | 本人・家族の意向を基に、会議で検討を行い、介護計画を作成している。各入居者に居室担当者を設けており、現場の意見を反映させた介護計画の作成に努めている。定期的に目標の達成状況の確認及び評価を実施しており、必要に応じて介護計画の見直しを行っている。 | 介護計画作成時の担当者会議には家族・本人の出席もしくは意見の照会を行い、より意向に沿った介護計画の作成に努めて頂くと共に、家族に説明をした際には確実に署名をもらう等、適正な介護計画の作成に繋げていただく事を期待します。 |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 食事摂取量、水分摂取量、排泄チェック、バイタルチェックや本人のことば、行動、表情、生活の様子、状態の変化などを介護記録に記録し、職員間で共有している。介護計画の見直しの際は情報のひとつとして活かしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人・ご家族の状況に応じた柔軟な対応に努めている。通院の支援・床屋への付き添いや床屋へ行けない方への散髪など職員が行っている。 | | |

【千葉県】グループホームふくろう

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 近隣の散歩により地域の方と挨拶を交わしたり立ち話をする。スーパーや商店に買い物に行くなど日常的に活動の支援を行っている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 利用者またはご家族が希望している医療機関を受診している。受診時の行動や必要に応じてバイタルチェック表を提示している。協力医とは24時間連絡が取れる体制を取っている。歯科の訪問診療も依頼している。 | 希望の掛かりつけ医への受診が可能となっていると共に、定期的に内科医の往診も実施しており、適切な医療受診を支援している。また、職員に看護師がおり、健康管理・医療面に関する相談も行っている。協力医療機関とは24時間連絡が可能となっており、緊急時や急変における対策を講じている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 2名の看護職スタッフがおり、利用者の状態の変化や気付きや疑問を報告、相談してアドバイスを受け介護に当たっている。体調管理、リハビリなど看護師として介護職スタッフに指導、フォローアップできる事は行い、必要時はかかりつけ医に相談し早めの対応が取れるよう支援している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 利用者が入院した場合には、ADLや経過を看護サマリーとして入院先に提出している。退院時は入院中の経過報告をもらい、退院後も順調に回復できるよう支援している。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時、日常の健康管理や急変時の対応、入院先との連携についてご家族に説明し、意向に添うよう努めている。長年入居され状態が変化してきた方には、その時点で改めてご家族の意向を確認するようにしている。看取りについての指針作成、ご家族の意向を尊重して同意書を作成するようにしている。 | 契約時に重度化・終末期における施設方針を説明・同意を得ると共に、意向の確認を行っている。必要に応じて、家族・医師・看護師と相談しながら支援方法を検討している。また、状態の変化に応じて本人・家族から意向の再確認もこまめに行う等、職員全員で本人・家族の意向に沿った支援が行えるよう体制を整えている。 | |

【千葉県】グループホームふくろう

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変時、事故発生時は慌てず優先順位を考えて行動できるように、施設内勉強会で予測される急変、事故の対応方法について学び、どのように行動すべきかを確認しあっている。また、必要関係者に迅速に連絡がとれるように緊急連絡網を作成し、電話近くに提示している。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 火災や自信を想定した避難訓練を年2回行っている。緊急通報装置、火災報知機、スプリンクラーを設置している。地域に協力を求めにくい環境のため、緊急時の職員連絡網を作成し、かつ連絡方法など話し合いを持っている。 | スプリンクラー・自動通報器・火災報知器等の消防設備を設置していると共に、定期的に避難訓練を実施している。訓練では、夜間想定・通報訓練等を実施しており、状況に応じた避難方法の確認を行っている。運営推進会議を活用し、地域や関係者の理解・協力を得られるよう工夫している。他にも、全職員が救命救急講習に参加しており、緊急時における対応方法の習得にも取り組んでいる。 | 施設内の避難訓練を確実に年2回以上実施すると共に、今後は定例化を行い、災害時の避難及び対応方法の再確認を行っていただく事を望みます。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 利用者の誇りやプライバシーを傷つけないようにしている。常に尊厳を守って接するように心掛けている。カンファレンスでは、声かけや話し方や接し方について話し合い、反省する事がないか振り返っている。 | プライバシー・接遇マニュアル等を整備していると共に、研修・会議の参加を通じて職員の周知・理解促進を図っている。「その人らしく」を理念に掲げており、理念を意識した支援の実現に取り組んでいる。日中は玄関のカギは施錠せず、入居者の自由な生活を支援している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 利用者が自己決定できる場面を作るようにしている。利用者の尿力により複数の中から選択してもらったり、自己決定を容易にする工夫をしている。本人の心を大切に受け止め、寄り添うケアに努めている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一人ひとりのペースを尊重した暮らしを支援している。季節毎の自然やその日の天候などを考慮して、散歩や買い物など、その時の本人の意向を引き出し、それに添って過ごせるように努めている。 | | |

【千葉県】グループホームふくろう

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 一人ひとりのおしゃれ(化粧など)、身だしなみ(好みの服)などの生活習慣の情報を本人・ご家族から聞き取り、継続して楽しむ事ができるよう支援している。理容・美容も本人が望む店にいけるようにしている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | おかずは3食栄養のバランスを考慮し、配食サービス(食材)に依頼している。本人の好みや飲み込みの状態に合わせてご飯は通常のものとおかゆを準備している。食事の準備・片付けは一人ひとりのできる能力を把握し、職員と一緒にやっている。食事は信頼関係の構築という意味も踏まえ、利用者と職員と一緒に食べている。 | 入居者の希望や能力に応じて、食事の準備から片付けまでを共同で行えるよう配慮している。献立や食材の配送を業者に委託しており、栄養バランスに配慮した食事提供を行っている。定期的に行事食・外食を実施し、食に対する楽しさを提供している。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 1日全体を通じた食事摂取量、水分摂取量を確認した記録をしている。利用者のその方に応じた量・大きさ・食べるペースや体調などを把握し声かけを行い、なるべく800ml以上は水分摂取できるよう支援している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 口腔内の清潔保持のため、毎食後の歯磨きを促している。能力に応じ見守りや介助の支援をし、義場は預かり消毒している。希望があれば歯科医の往診が受けられ、口腔清掃も行っている。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェック表を付けることにより、排泄のパターンを把握し、トイレ誘導をさりげなく促している。夜間はその人の能力に応じ、見守り、トイレ内介助、歩行介助、定時の誘導など、自立に向けた支援をしている。 | 排泄チェックリストを活用しながら、個々の排泄パターンを把握しており、声掛けやトイレ誘導にて対応しながら排泄の自立に向け取り組んでいる。また、献立の工夫や運動等を取り入れると共に、必要に応じて、医師や看護師の指示を仰ぎながら、適切な排便コントロールを行っている。 | |

【千葉県】グループホームふくろう

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 野菜の多いバランスの取れた食事を作り、食事摂取量と適切な水分力が確保されるように注意している。また体操やホール内歩行など、楽しみながらの運動も行っている。便秘傾向の人には適切な下剤使用を工夫している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 入浴は週3回、午後に行っている。入浴を拒む人には無理強いをせずタイミングに合わせて声かけや対応の工夫をしている。湯の音頭や洗い方など個人の要望を聞きながら、入浴を楽しんでいただけるよう支援している。 | 入居者の体調・希望に応じて、柔軟に対応しながら適切な入浴機会を確保している。また、必要に応じて、シャワー浴・部分浴・清拭等を実施しており、入居者の清潔保持に努めている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 利用者の体調や落ち着きのなさや緊張、疲労の程度に応じて一服したり、心身を休める場を個々の生活パターンに応じて取れるよう支援している。一人ひとりの睡眠パターンを把握し、夜間目醒めない利用者には、日中の作業をできるだけ取り入れ、リズム作りの支援をしている。不眠の方は医師と相談し、必要時はす民剤を服用していただき安眠へとつなげている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 服薬の確認は必ず職員が行う。個々のケースに処方内容がファイルしており、すぐ目を通せるように置いている。薬の作用と副作用については看護師より説明され、日常状態観察し、申し送りや記録で引継ぎがなされ、体調管理を行っている。ほぼすべての薬は薬局に分包を依頼しており、名前、飲む時間などが袋に記載されているので、飲み間違いがないように確認・管理している。 | | |

【千葉県】グループホームふくろう

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 日々の生活の中から、生活歴から一人ひとりが楽しみごとや出番を見出せるよう、場面作りの支援を行っている(掃除、新聞を読む、ボードへのメニュー書き、お茶入れ、食事の盛り付けなど)。気分転換やストレス解消にドライブ、散歩など外の空気や季節を感じ、喜びにつなぐ事ができるよう努めている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 月毎の行事担当者がその季節に合わせた、入居者の希望に合わせ、外食や花見、参拝などに出かけられるよう計画している。その他にも、個々の希望による外出や気分転換・ストレス解消を目的とした買い物、散歩、ドライブなど、その方の体調や天候などを考慮しながら外出できるよう支援している。 | 日頃から散歩・買物等の外出活動を行っていると共に、敷地内のウッドデッキ等を活用して、外気浴・お茶飲みを実施しており、気軽に外の空気に触れらる環境整備がなされている。また、定期的に外出行事を企画・実施しており、戸外での楽しみを支援している。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | お金に対するの思いは個人によってその時の状況によって様々な形で表現される。その思いの違いを汲み取り支援している。希望する人は職員同行にて買い物に出かけたり、できる方は職員見守り似て支払いもしていただいている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 利用者が電話をかけたいと希望する時は、本人の願いに応じて電話をかけるようにしている。ご家族からの手紙が届けば、本人が読めるよう支援している。毎年ご家族宛に年賀状を書いているが個々の能力に応じて支援している。 | | |

【千葉県】グループホームふくろう

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節に合った花や装飾を行っている。利用者と共に季節の飾りつけをして、季節を感じてもらえるようにしている。大きなホールの中でテレビを囲んだソファや食事の場でもあるテーブル席など、好みの場所でテレビを観たり、音楽を聴いたり、おしゃべりができたりと、個々がゆっくりくつろげるような空間作りに努めている。 | 施設内はバリアフリーとなっており、十分な介助スペースを設けており、入居者の安全が確保された内装になっている。共有スペースにはソファやテーブルが設置されており、自由にくつろげる生活環境作りがなされている。また、ウッドデッキや菜園があり、気軽に外の空気に触れることが出来ると共に、季節を感じる事が出来る共用生活空間となっている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 食事するテーブルが3台、ソファが3台あり、仲良しグループや余興の好みの合う者同士など、その時の利用者の関係性や行動などに合わせてホール内の家具を移動するなどしている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居時にご家族にお願いし、長年使い慣れた家具や家電、好きな写真などを持ち込んでいただき、安心でき居心地良く暮らしていただけるよう工夫している。自分の部屋に愛着を持ってもらえるよう個々の部屋の掃除は職員と一緒にその部屋の入居者をお願いしている。 | 本人・家族の希望に応じて、馴染みの家具等を自由に持ち込むことが可能となっていると共に、布団を敷く事やテレビ・ポータブルトイレの設置も可能となっており、生活歴に合わせた居室作りを行っている。その他にも収納スペース・鍵が設置されており、プライバシーの確保に配慮された居室となっている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 手すりの一夜テーブルや椅子の使いやすさは適切化、利用者の状態に合っているかを職員間で話し合うことにしている。トイレや浴室には見やすい場所に案内を表示し、個々の居室にも本人の写真と名前を貼るなど、利用者がわかりやすいような環境づくりに努めている。 | | |